

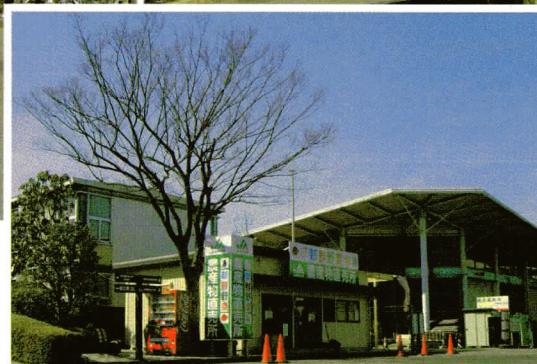


樹里安だより

ジュリアン

2007年3月

Vol. 21



— 安行の名所 (その八) —

川口市営植物取引センター 《川口市大字安行領家1100》

昭和48年(1973年)9月「安行植物取引・造園センター」として設立される。平成8年4月に現在の名前に改称。植木及び花卉生産の振興のため、またその流通の円滑化、取引の適正化を促進することを目的に設置され、植木・苗木・鉢物等のセリ市が年間を通じて毎週水曜日に行われている。

3本の センペルセコイア

（川口市安行682）

安行花山下の交差点を赤山城址方面に向かって行くと、左側に3本のセンペルセコイアがある。この道を通るといつも気になっていたので、川口市の保存樹木ではないが、今回はこの木を題材として取り上げてみた。

センペルセコイアは世界最大の樹木といわれていて、日本では30m程度だが、適地では100メートル近くになるという。メタセコイアと似ているが落葉樹と針葉樹の違いがある。アメリカなどでは海岸の近い山地などに分布しているが、日本では植物園以外ではあまり見ることができないといわれている。当然、川口市内で自生していることはたいへん珍しいことなのである。この木は安行にある造園業者の中田彪氏の所有物である。原産地が日本でなく、たいへん珍しい樹木が何故安行にあるのか中田氏に取材してみた。すると今から30年前に中田氏が東京都の八王子市にある農林水産省の林業試験場浅川実験林に入りした時に譲り受けたそうだ。余談になるがこの実験林は、現在は多摩森林科学園という名称に変わり桜の名所として有名な場所である。

話は戻って当時は、まだ目通り25センチメートル程の若木で、それが今の高さまで生長した。その高さは30m程度で下から見上げても上の方はほとんど見えない。持ってきた時は、「こんなに大きくなるとは想像もしてなかった」とのこと。中田氏自ら植え付けをし、この木への思い入れは深いそうだ。自分の子供といった感じだ。丁寧に説明をいただいた後、取材は終了し、疑問がやっと解決した。“どんな植物でもここにはあるんだな”と思い、改めて“植物の宝庫・安行”に対して畏敬の念を持つことができ、同時に満足感でいっぱいになった。帰り際にもう一度木を見た。冬の太陽に照らされた深緑の葉が印象的であった。



※個人の所有物なので見学の際はマナーを守ってお願いいたします。

センペルセコイア

Sequoia sempervirens (D.Don) Endl. (スギ科セコイア属)

- 分布：アメリカ合衆国（オレゴン州・カリフォルニア州）北米原産
- 大きさ：現地では平均60～80m（樹高が100mを超える個体も多い）
胸高直径3～7m国内では高さ30mくらいまで育つ
- 用途：公園樹 庭園樹 記念樹 建築材 建具 家具
- センペルセコイアは、常緑の高木針葉樹で別名セコイアメスキ、レッドウッドとも呼ばれ、氷河期以前の白亜紀～第三期にかけて北半球に広く分布していたとされています。世界で最も大きくなる樹種の1つであり、生長がとても早く年に1m以上伸びます。寿命もとても長く平均500～1300年と考えられておりましたが、個体によっては樹齢2000年以上の物も存在すると言われております。樹皮の厚さは15cm～30cm以上にもなり幹の色が赤い事から上記のレッドウッドと言う呼び名がつきました。



ミヤマシキミ

Skimmia Japonica Thunb. (ミカン科・シキミ属)

(写真1)

- 原産国：日本
- 雌雄異花又は雌雄異株の常緑低木
- 開花時期：3月～5月
- 結実期：9月～12月
- アルカロイドと言う毒素を含む有毒植物
- 本州から九州の山地にかけて分布し、白い花と赤く熟す果実を付ける。耐陰性があるため日当たりの悪い所でも育ち、シャドウガーデンや日陰地の寄せ植え、根締めなどの利用に適しています。樹形は自然と半球形になるので管理も簡単です。また生育する際にはカイガラムシの被害を受けやすいので注意が必要です。欧米等では人気が高く実や花の美しい園芸品種が多く作出され広く普及しています。



(写真2)



(写真3)

園芸品種

◇ミヤマシキミ “ルウェイアン” (写真2)

海外で作出された改良種の1つで、ピラミッド型の花序に茶色の花を付けます。

◇ミヤマシキミ “ブロンズナイト” (写真3)

冬に美しいブロンズレッドの葉を付けます。

◇ミヤマシキミ “ルベラ”

ヨーロッパで改良されて誕生しました。人気のある品種でクリスマスの時期には赤い実を付け春に白から薄いピンク色の花を付けます。

祝

優勝・勝利の記念



ゲッケイジュ

クスノキ科 ゲッケイジュ属
(常緑広葉樹・小高木・中庸樹・雌雄異株)

ギリシャ神話では、アポロンの愛を逃れようと妖精ダフネが変身したのがゲッケイジュ。アポロンはその愛の記念に、以後つねに月桂冠をつけたという。古代ギリシャではスポーツ競技は神、特にアポロンに捧げるものだったため、競技の勝利者の頭上には月桂冠を飾ることとなった。勝者をたたえて。

1. 特徴

開花期：4月、結実期10月。実は雌株につく。葉は香辛料になる。生長はやや早い。

2. 植えるときの注意

時期：5～6月

場所：寒風の当たらない、温暖な半日陰の場所がよい。土質はあまり選ばないが、肥沃な土がよい。

3. 管理のポイント：暖地に適すので、関東以北では防寒に注意が必要。

《他の木》



イチイ

常緑針葉樹・高木
陰樹・雌雄異株



キンモクセイ

常緑広葉樹・小高木
中庸樹・雌雄異株



ヒノキ

常緑針葉樹
高木・中庸樹



サルスベリ

落葉広葉樹
高木・陽樹

参考：日本緑化センター 木を植えよう 記念樹にふさわしい木とそのいわれ



母の日とカーネーション

5月の第2週の日曜日は母の日としてみなさんに知られています。日頃の感謝の気持ちを表すためにメッセージカードなどを添えてカーネーションをプレゼントします。アメリカでは、クリスマスの関連商品の総売上額を越えるそうです。



母の日の始まり

母の日は、1907年アメリカのアンナ・ジャービス（以下ジャービス婦人）という婦人が亡き母のための追悼会を教会で開催し、生前母の好きだった白いカーネーションを壺いっぱいに飾り、会終了後、参加者に配布したことから始まりました。ジャービス婦人の母ミセス・ジャービスは自分一人で娘2人を苦労しながら育てました。また、敬虔なキリスト教徒で日曜日には教会の教師を努めていました。ジャービス婦人は母を敬愛しいいつも感謝していたことから、追悼会でカーネーションを配布しました。この話を聞いたデパート経営者が近隣の子供と母親を招待し、母の日のイベントが開催されました。このイベントではジャービス婦人の提案で、母の存命する者は赤いカーネーションを、母を亡くした者は白いカーネーションを胸に付けるようになりました。これが次第に全米全土に広がっていきました。ジャービス婦人はその後、有力政治家に手紙で「母に感謝する日」を祝日化にする希望を手紙を通して訴え続け、これが当時の威尔ソン大統領に伝わり、1914年の議会で5月の第2日曜が母の日として正式に定められました。日本では、大正時代の終わりに婦人矯風会が母の日を提唱したことから始まり戦後徐々に浸透しました。

カーネーションとキリスト教

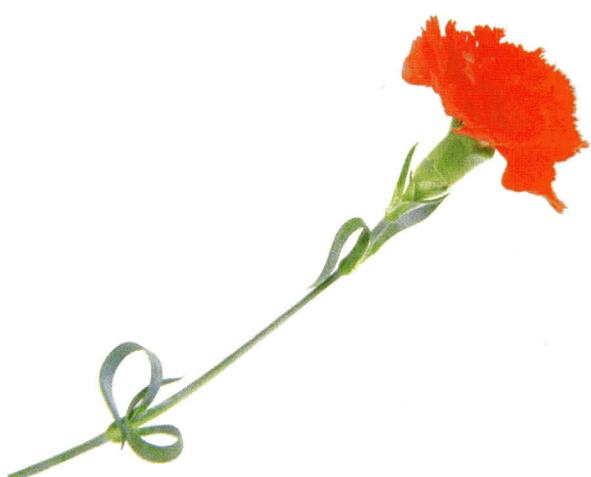
キリスト教でもカーネーションと母親を結びつける逸話があります。イエス・キリストが十字架にかけられた時に母マリアが涙を流しました。そこからカーネーションが咲いたと謂われています。このことからキリスト教徒にとってカーネーションは母親との関係を象徴する重要な意味を持つ花になったのです。

地中海でのカーネーション

カーネーションは地中海沿岸地域ではキリスト教以前に神聖な花とされていたようです。ギリシャではゼウスの祭りにカーネーションの冠を被って参加したそうです。花の名前 carnation(カーネーション)は corona(コロナ：王冠)が語源と考えられています。花の形が王冠に似ていたからだそうです。このことからcarnation(カーネーション)は coronation(コロネーション：戴冠式)と呼ばれていました。これが変化して現在の名前になったようです。

日本でのカーネーション

カーネーションは日本では江戸時代初期に輸入され、アンジャベルまたはアンジャヤ(蘭：anjelier、tuinanjelier)と呼ばれていました。享保年間に出版された「地錦抄録」には徳川家光の正保年間にオランダから伝來したという記録が残っています。そして寛文年間に再伝來し、14品種が紹介されています。この時期に書かれた「花壇綱目」にも「あんしやべる」の名前で記録されています。1755年に著された「絵本野山草」にはナデシコの仲間の一つとして紹介されています。



カーネーション



科名：ナデシコ科（常緑宿根草）

別名：オランダセキチク ジャコウナデシコ

学名：Dianthus caryophyllus

原産地：地中海沿岸地域

花期：5～6月

草丈：20～100cm

花色：赤・桃・白など

適地：全国の日なた

花言葉：女性の愛



植物の耐性

耐陰性：あまり日の光を浴びない日陰などでも耐えて生育する性質のこと

(代表的な植物：イチイ、サザンカ、ツバキ、ネズミモチ、カクレミノ、モチノキ)

耐寒性：低い気温に耐えて生育する性質のこと。

(代表的な植物：ニオイヒバ、メタセコイア、サワラ、ソヨゴ、ハイマツ、アラカシ)

耐暑性：高い気温に耐えて生育する性質のこと

(代表的な植物：アメリカザイフリボク、ナツヅタ、モッコウバラ)

耐乾性：乾燥に耐え生育する性質のこと

(代表的な植物：コナラ、クヌギ、コウヤマキ、カイズカイブキ、アカマツ、オリーブ)

耐病性：特定の病気にかかりにくい性質のこと

(代表的な植物：キハダ、コノテガシワ、シダレヤナギ、シラカバ)

耐霜性：霜に強く、耐えて生育する性質のこと

(代表的な植物：ヤブツバキ、イタヤカエデ、エゴノキ、クコ)

防火性：樹木の材質等が燃えにくく、火を止める性質を持つこと

(代表的な植物：イチョウ、カシワ、ネズミモチ)

耐湿性：湿気に耐えて生育する性質のこと

(代表的な植物：アキニレ、ラクウショウ、カツラ、サンゴジュ)

耐煙性：大気汚染や排気ガスなどに耐えて生育する性質

(代表的な植物：ゴヨウマツ、エンジュ、クスノキ、トウカエデ、スズカケノキ、)

耐風性：強風等に耐える性質のこと

(代表的な植物：ムクノキ、ハルニレ、ケヤキ、キンシバイ)

耐潮性：海岸沿い等潮風に当たる場所でも耐えて生育する性質のこと

(代表的な植物：クロマツ、ハイビャクシン、マサキ、ウバメガシ、カシワ、アスナロ)

